

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住(最長3年)し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

笠間の魅力に引き寄せられて ～私の移住ストーリー～

プロフィール みやけ てるあき 三宅 輝明 隊員 (28歳)

2024年5月より笠間市の地域おこし協力隊として着任。笠間市の特産品である栗を活用し、笠間栗ファクトリー株式会社と連携して、栗製品の品質向上、商品開発、販売促進などの支援を行っています。活動を通じて、地域の活性化につながるような「笠間の栗のブランド化」に貢献することを目指しています。



千葉県から移住



フェイスブックもご覧ください

問 企業誘致・移住推進課(内線592)

連載 | 笠間の小道

● 方言に耳を慣らした日々。の語

笠間に移住して驚いたことの一つに、日常会話の中で飛び交う方言があります。笠間栗ファクトリーでもパートナーさんたちが使う言葉で「どういう意味だ?」と思うこともしばしばありました。

工場で作業していたある日のこと。パートナーさんの一人が「いしけー栗あったんだけど」と言ってきました。最初は、「石っぽい栗のことかな?」とポカンとしていたのですが、すぐに周りの人が「状態があまり良くないってことだよ」と教えてくれました。その後も時折「これかっぽつ」といって「こじゃつべなこと言うなよー」など聞き慣れない言葉が飛び交う日々が続き、次第にこうした言葉がすっかり耳に馴染むようになっていました。

ただ、「いやどうも」だけは、いまだにその意味をうまく捉えるのが難しいと感じています。この言葉は、挨拶、謝罪、驚き、共感など、あらゆるシーンで使うことができる万能な言葉で、時には「いやどうも」だけで会話が進んでいることもあるように感じます。私が完全に「茨城の人」になる日は、もう少し先になりそうです。

＜三宅さんの方言メモ＞

【こじゃつべ】いいかげん。でたらめ。間違い。
【いしけー】ぼろい。わるい。しょぼい。使えない。
【かっぽる】捨てる。投げること。
【いやどうも】あいさつ、謝罪、驚きや共感などの社交辞令で使われる。

翻訳が難しい万能な言葉。